

# 仰ぎて聖し わが学び舎

<https://hakubac.sakura.ne.jp/>

## 学校生活の様子から



～読書旬間 学習支援ボランティアの皆様による読み聞かせや図書館の様子～



～新生徒会発足に向けて 立会演説会や投票の様子～

### 11月の予定

～状況の変化により変更の可能性もあります～

- 2日(火) 人権教育月間(～12/2)  
白馬中CS運営委員会③
- 4日(水) 斜面・放課後数学 生徒会⑩
- 9日(月) この日から完全下校16:45
- 11日(水) 学校開放日③ PTA試食会
- 12日(木) 白馬国際フォーラム
- 17日(火) 後期中間・総合④テスト(～18)
- 18日(水) 生徒会⑪

- 19日(木) 漢字検定受付(7:40～)
- 20日(金) 避難訓練③
- 23日(月) 3年修学旅行(～25)
- 24日(火) この日から完全下校16:30  
2年職場体験(～25)
- 25日(水) 斜面 白馬村四校PTA
- 26日(木) 3年振替休業
- 27日(金) 3年計画休業

# 白馬村のオンライン授業への取組が紹介されていました

『ポスト・コロナショックの授業づくり』という本を購入し、読み進めたところ、白馬村のオンライン授業実現への取組が書かれていて、ビックリ。

編著者の奈須正裕先生は、次の通り、文部科学省が定めた新しい学習指導要領(学校のカリキュラム編成の基準)作成に重要な役割を担った、日本中の教育界・教育行政界が大注目している方です。そんな先生から白馬村の取組を絶賛していただけたことは、とても名誉なことです。

## 編著者の紹介 奈須正裕(なす まさひろ)

上智大学総合人間科学部教育学科教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程教育心理学専攻を単位取得退学、博士(教育学)。神奈川大学助教授、国立教育研究所教育方法研究室長、立教大学教授などを経て2005年より現職。2017年版学習指導要領に関わっては、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会、教育課程企画特別部会、総則・評価特別部会、幼児教育部会、中学校部会、生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ、小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議、小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議、2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会等の委員として、重要な役割を担う。主著に『子どもと創る授業』(ぎょうせい)、『「資質・能力」と学びのメカニズム』(東洋館出版社)、『次代の学びを創る知恵とワザ』(ぎょうせい)など。

以下に、白馬村の取組について奈須先生が述べられていた部分を紹介します。

我が国の教育行政は世界的に見ても中央集権が強く、まずは文部科学省が基本的な方向性を示し、各自治体は地域の実情を勘案し、可能な範囲でそれに基づいた対応を検討し実施することが多かった。ところが、コロナショックは参考にするべき経験がほとんどなく、またかなり突発的であったこともあり、政府からのまとまった指示を待つことなく、自治体ごとに目の前の状況に即時対応することが求められた。これは、従来の地方教育行政が経験したことの無い事態である。

その結果、自治体によって対応が実に様々に分かれ、また一定の時間をおいてそれらが何をもたらしたかをつぶさに確認することができた。典型は、オンライン学習の実施に踏み切るかどうかの判断、そのための条件整備において発揮された創意工夫の質と徹底ぶりであろう。白馬村の取組はその最たるものであり、迅速にして柔軟な展開は、今後における、教育に限らない地方創生全般への希望を抱かせるものである。

今回のコロナショックでは、従来の学校に支配的であった、形式的な平等を厳格に優先するあまり一歩も前に進めないといった在り方との決別を、地域や学校に迫ることが度々あった。コロナショックをきっかけに、よい意味で吹っ切れることができたか否かは、今後に向けての大きな分岐点となろう。まだ遅くはない。一刻も早く、多くの自治体が前へと進むよう決断することを願いたい。

『ポスト・コロナショックの授業づくり』 奈須 正裕 編著(東洋館出版社)より抜粋

